

TEL杯スピチャン・スカパー杯 FII

5/3(金) 4(土) 5(日)

GIRL'S
KEIRIN

ナイター
開催

川崎スポーツ



レース展望

5月3日から開催される川崎競輪は、TEL杯、スピチャン・スカパー杯として行われるF2ナイター。ガールズケイリンを含む12レースで構成される。

1、2班戦は地元ホームの齋藤雄行(神奈川121期)に期待。強力な北日本、関東勢を積極的な走りで迎え撃つ。副島和人(神奈川105期)と共にまずは決勝進出を目指す。北日本の軸は機動力高い猪狩祐樹(福島99期)となり、今期は勝率53%・連対率60%と抜群の安定感。関東勢は層が厚い。A級ではトップクラスの機動力を誇る片折亮太(埼玉92期)を筆頭に、当地は前回完全Vの矢野

昌彦(栃木91期)、積極的な土田栄二(茨城115期)らの機動型に、何でもこなせる水森湧太(東京117期)も好調を維持している。全体的な戦力では関東が一歩リードか。

チャレンジ戦も関東勢が強力。積極的な走りが魅力の石田典大(東京123期)、治田知也(新潟121期)の2枚看板に、両者を目標にできれば、差し脚好調な内海雅夫(群馬83期)にもチャンスは巡って来そう。地元南関東地区は鳥海創(千葉123期)の機動力が頼み。まだまだムラはあるが、力を出し切れれば優勝争いに加われる脚力はある。地元ホームの久保将史(神奈川95期)や鈴木広人(神

奈川99期)らも流れひとつとなりそう。北日本勢は新人選手のあっせんが無くやや劣勢。経験豊富な中堅機動型が、若手を相手にどうかく乱するかが鍵となる。

ガールズケイリンは競走得点が50点を越える選手が多くあっせんされており、ややレベルは高め。なかでも実績豊富な鈴木美教(静岡112期)や、昨年GP出場を果たしている吉川美穂(和歌山120期)の両者が中心。先行技術高い石井貴子(東京104期)や、自在に柔軟な走りができる田中まい(千葉104期)や永禮美瑠(愛知118期)も流れ次第では優勝争いに加わってきそう。

地元齋藤雄行が別線を迎え撃つ

A級
主力選手



齋藤雄行 神奈川121期

水泳で活躍してきた齋藤雄行は適性試験で養成所の門を叩き、デビューを果たして以来積極的な走りで着実に力を付けている。昨年チャレンジ戦からの特昇班を決め、後期にはS昇級への競走得点を確保。来期からのS級戦に向けても、この地元戦で弾みを付けたい。

A級
主力選手



猪狩祐樹 福島99期

大敗も少なくはない猪狩祐樹だが、しっかり仕掛けた時のカマシ、まくりは威力抜群。S級でも1勝級の実力がある。今年は優勝は1度きりで物足りない感はあるが、来期のS級復帰に向けて加速していきたいところ。強力な相手は揃うが、優勝候補の一角と見ていい。

A級
主力選手



水森湧太 東京117期

今年は目覚ましい活躍を続けている水森湧太は、既に2Vを挙げて初のS昇級も見える位置にいる。自力が基本だが、いざとなればヨコの動きも苦にしない自在性も魅力のひとつ。どんな展開でも対応できる攻め幅の広さがあり、車券の軸として連日狙っていきたい。

A級
注目選手

石田典大 東京123期



ウエイトリフティングで鍛え抜いた体を生かして競輪選手となった石田典大。養成所時代から先行にこだわり、ほとんどのレースでバックを取っているハートの強さが魅力の選手。捲りの威力も十分だが、やはりハナを斬って駆けるスタイルが基本の徹底先行タイプ。

ガールズ
注目選手

鈴木美教 静岡112期



過去に2度のグランプリ出場がある鈴木美教の実績が上位。今年の成績はますますだが、今年の年末に行われる地元静岡グランプリ出場までの道のりはまだ遠い。後半の巻き返しを狙うには、一戦一戦が勝負となる。難敵揃うシリーズではあるが、Vを目指して力走。

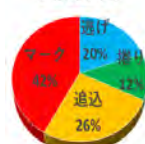
川崎競輪場バンクガイド (2023年10～12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えで、自力型のアタマから組み立ていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。

1着決まり手



2着決まり手



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル